

「緑のダム」とブナ林が果たす役割

ブナは大変多くの水分を貯える性質があります。成木1本で約8トンともいわれています。そのため腐りやすいとして、建材に使用されず「役に立たない 木で無い木」ということから「樫」という漢字で書かれるようになりました。

しかし、本当はとても「役に立つ木」なのです。水分を多く含むブナがたくさん生えている森林ではブナの木だけでなく、山全体でさらに多くの水を貯え、「緑のダム」の役割をします。また、ブナは早く腐る性質がありますが、その後は森の栄養たっぷりの土となります。雨水が栄養豊富な地面にしみこみ、山々から地下を通り、大野市街地の湧水となります。大野市の豊かでおいしい地下水はブナから始まるといってもよいかもしれません。そのため「大野市の木」はブナなのです。

ブナの実には「そばぐり」とも呼ばれ、そばの実にとてもよく似ています。味はクルミやピーナッツに似ていて、栄養価も高いです。熊などの食料となり、大型野生動物の生態系を守る役割をしています。このようにブナ林は地下水の保全や国土の保全、また生態系の保全などに大きな役割を果たしています。

平家平の優れた自然

大野市では、平成9年～平成11年の3年にかけて平家平の自然環境調査を行いました。

環境省の『日本の絶滅のおそれのある野生生物』に絶滅危惧種として記載のあるものや、『国の天然記念物』に指定されている希少な動物が生息しています。また、平家平は渡り鳥の移動ルートにあり、多くの種類の野鳥を見ることができます。

●平家平に生息する希少種



ヤマネ

テングコウモリ・ヤマネ・ニホンカモシカ(見かける機会は多い) イヌワシ・クマタカ・ハイタカ・ハチクマ・ミサゴ など



●めずらしい渡り蝶も飛来します

アサギマダラ

羽を広げると10cmを超える大型の美しい蝶です。飛び方も緩やかで天上から羽を広げたまま流れるように舞い降ります。平家平では8月～9月上旬にかけて、南へ移動する前のアサギマダラをたくさん見ることができます。平家平にはアサギマダラが好むヒヨドリバナが群生している場所があります。秋には花にぶら下がるようにして、蜜を吸う姿も見ることができます。福井県内で羽にマーキングしたアサギマダラが三重県内で採集された事例もあります。

アサギマダラ

大野市自然遊楽ガイド

大野市の森づくり団体が、自然保護・保全の活動を行っています。



あらしまだけ

① 荒島岳 (標高1523.5m)

「日本百名山」に数えられ、山容の美しさから「大野富士」とも呼ばれています。中腹の登山道沿いにブナ林があります。初夏のシャクナゲ、秋の紅葉も見事です。勝原登山口、中出登山口には、トイレ、駐車場があります。

荒島愛山会

日本百名山の荒島岳の、保護・保全に努めています。登山道整備のほか、山開きや麓での植樹・育樹活動なども行っています。

<https://ja-jp.facebook.com/arasimaazankai/>

げなんぼ

② 銀杏峰 (標高1440.7m)

大野市の南西部にある銀杏峰(げなんぼ:標高1440.7m)は、大野市街地からもその姿を望むことができ、西隣の部子山(標高1,464m)と肩を並べ、比較的穏やかな印象を持つ山です。「銀杏峰」と書いて「げなんぼ」と読みますが「きなんぼう」とも呼ばれ、「銀枕峰」とか「宜南峰」「銀南峰」と書かれることもあります。コブシに似たタムシバやミツバツツジが季節を追って咲きます。6月下旬～7月上旬にかけて福井県の県境準絶滅危惧に指定されているオオヤマレンゲを見ることができます。秋は紅葉で山が染まり大変見事です。

里山銀杏峰を愛する会

銀杏峰をもっと身近に感じてもらうと、登山道を整備するなど、積極的に活動しています。登山道沿いの植物や麓の宝慶寺周辺の施設等も含めた楽しみ方を提供しています。

<http://www11.plala.or.jp/genanpo/>



ももきとうげ

③ 桃木峠の大杉 (推定樹齢約400年、樹高約30m、幹周8m)

大野市東部、阪谷地区と五箇地区との境に大きな杉の巨木があります。昔、泰澄大師(たいちゆうたいし)白山を開山した人といわれています。)が峠で昼食をとった時、地面に挿した箸が根付いたと伝えられています。根元に小さな祠(ほこら)があり、昔を語りかけるようなお顔のお地藏様が祀(まつ)られています。昭和42年に市指定天然記念物に指定され、さらに平成12年に林野庁の「森の巨人たち100選」に選ばれました。

桃木峠の大杉保全協議会

「桃木峠の大杉」を守ろうと平成14年5月に設立。大杉を地域の大切な宝物として後世に伝えたいと活動しています。周辺の環境整備や保全活動のイベント、観察会などを行っています。

や

④ 矢ばなの里

大野市北西部に位置する矢地区。地区内のお寺周辺に桜120本を植樹したことが矢ばなの里の始まりです。桜の植樹も地区全体に広がり八重桜、しだれ桜のほかに花桃やアジサイ、モミジなど1年を通して花と里山の風景を楽しむことができます。中でも春のカタクリは3haに100万本の花を咲かせます。

矢環境緑化実行委員会

矢地区の里山を整備し、人々の憩いの場となることを目指し、活動しています。桜の植樹、自生しているカタクリの保護をし、矢桜公園、カタクリの里を整備しています。春には「かたくりまつり」も実施されます。

くずりゅうはなももかいろう

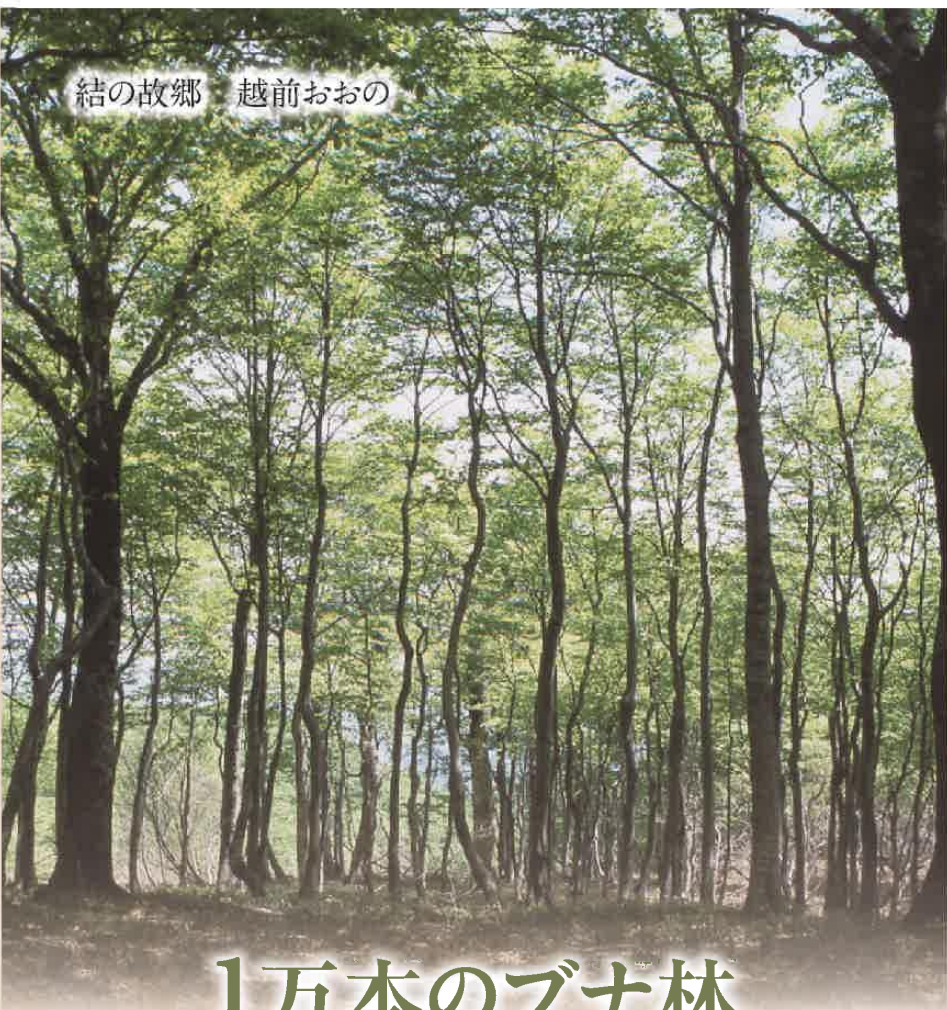
⑤ 越前おおの・九頭竜花桃回廊プロジェクト

九頭竜国民休養地やフレアール和泉、道の駅「九頭竜」周辺、前坂キャンプ場などに花桃1600本以上を植樹。赤、ピンク、白の美しい花桃をそれぞれの場所で楽しむことができます。

越前おおの・九頭竜花桃回廊実行委員会

大野市和泉地区で花桃の植樹を行い、管理・保全、地域的美化活動に取り組んでいます。

結の故郷 越前おおの



1万本のブナ林 平家平

Access



公共交通機関利用 (大野市街地まで)				
名古屋から	JRで	名古屋 JR北陸本線 福井 JR越美北線 京福バス大野線	大野	約4時間40分
	高速バスで	名鉄バスセンター-JR名古屋駅 福井 JR越美北線	大野	約3時間50分
大阪から	JRで	大阪/京都 JR北陸本線(湖西線) 福井 JR越美北線	大野	約2時間50分
	高速バスで	大阪市阪急三番街 高速バスターミナル	福井 JR越美北線 大野	約4時間30分

自動車利用 (大野市街地まで)				
名古屋から	一宮	東海北陸自動車道	白鳥IC	国道158号 大野
	名古屋	名神高速道路	米原JCT	北陸自動車道 福井IC 国道158号 大野
大阪から	大阪	名神高速道路	米原JCT	北陸自動車道 福井IC 国道158号 大野
	大阪	名神高速道路	米原JCT	北陸自動車道 福井IC 国道158号 大野

※JR越前大野駅からの公共交通機関はありません。JR越前大野駅からはタクシーをご利用ください。レンタカーをご利用の場合はJR福井駅で下車してください。

宿泊のお問い合わせ				
大野市観光協会	〒912-0081 福井県大野市元町10-23	☎0779-65-5521		
国民休養地パークホテル九頭竜	〒912-0217 福井県大野市角野14-3	☎0779-78-2326		
ホテルフレアール和泉	〒912-0207 福井県大野市下山63-2-24	☎0779-78-2536		
麻那姫湖青少年旅行村	〒912-0000 福井県大野市中島	☎090-4325-1240		
道の駅「越前おおの荒島の郷」RVパーク	〒912-8023 福井県大野市蔵生137-21-1	☎0779-64-4500		

※営業等詳しくは各施設へお問い合わせください。

問い合わせ先／大野市地域経済部農林業振興課 ☎0779-66-1111

【結の故郷のたからもの 平家平】を 次の世代に引き継ぐために…

『平家平』は豊かな自然と地下水に恵まれた大野市の南部、真名川上流域にある栗原地区(市街地から約40km)にあります。標高約600m～1200mのなだらかな斜面の森林地帯で、ブナ林を中心に植生が広がっています。広さは約196ha。ブナの自然林が40haあり、樹下にはオウレン畑が広がる大変美しい森林地帯です。昔、平家の落人がこの地に移り住んでいたといわれることから、『平家平』と呼ばれるようになったようです。『平家窟』と呼ばれる洞穴もあったそうです。

かつてこの地は、大野市の旧西谷村の方々が所有していましたが、昭和40年の風水害に伴う真名川ダム建設のためなどにより廃村となりました。その後は所有者が転々としましたが、平成8年に大野市が自然環境の保全と市民の憩いの場として活用することを目的に購入しました。

購入後の調査では、優れた、貴重な自然が残されていることが判明しました。大野市ではこの自然を保護・保全しながら、次の世代に引き継ぐために様々な活動を行っています。

市民が大切に保護・保全しています



ブナ林の管理や自然観察道の草刈りなど



ブナの苗木づくり

市民ボランティア団体が毎年保護・保全の活動を行っています。

平家平を愛する会

平家平の美しい自然を保護・保全するため、自然観察を通して自然に親しんだり、自然観察道の草刈・ブナの植栽など、里山の作業体験等を募集・実施しています。

平家平の美しい自然を みんなで守りましょう。

- 自然観察道・作業道からはみ出さないようにしましょう。
 - ・貴重な植物は「踏みあらし」により衰退します。ぬかるみを避けて歩く時も植物に気を付け、自然観察道を歩きましょう。
 - ・写真を撮るときも自然観察道からはみ出さないようにしましょう。

- 植物を折ったり、持ち帰ったりしないようにしましょう。
 - ・植物に傷をつけると、発育不足や枯れたり、減少したりします。

- オウレンは大切に栽培されています。
 - ・地元の方が大切に育てています。決して傷つけないようにしましょう。

- 持ってきたものはすべて持ち帰りましょう。
 - ・食べ残しの生ごみなどは、動植物の生態系を狂わせてしまう可能性があります。
 - ・穴を掘って埋めることや、動物にエサとして与えることもやめましょう。

- 森林管理の為、作業道には作業用の自動車が通ります。安全に気を付けて歩きましょう。

- 平家平の自然観察は自己の責任において無理をせず、安全に行いましょう。

平家平 散策コースご案内

※休憩は含みません

自然観察道 旧里道ルート

青ライン

①平家橋 ～ ②登山口案内板

果原集落の人達が平家平で作業するために利用した道を整備したルートです。かつて、果原集落の人達が、平家平で行っていた山仕事の名残を感じることができます。登山道に入ってすぐにドングリの植栽地を見ることができます。このドングリの苗は、大野市が行っている森づくりのイベントで採取したドングリを育て、植樹したものです。このようにドングリの森づくり活動も行われています。標高700mくらいはミズナラが良く見られます。炭焼きの窯の跡なども見ることができます。

【片道】 約3.7km
約1時間20分

平家橋から登山口までの自然観察コースです。平家橋を渡り、右手（道標あり）登山道に入ります。入るとすぐにドングリの植栽地があります。登り始めに急な坂がいくつかあります。しかし長くは続きません。

自然観察道 ブナ一斉林ルート

赤ライン

②登山口案内板 ～ ③ブナ一斉林

散策ルートにはオウレン畑がひろがっています。場所により栽培年が違うため、若いものから成熟したものまで見ることができます。オウレンは春先に小さな白い花が時計の文字盤のようにリング状に咲きとても可愛らしいです。林の中を進みますが、木々の切れ間から銀杏峰や部子山を見ることができる箇所もあります。ブナの一斉林は圧巻です。樹下のオウレンがまるで緑のじゅうたんのよう到大変美しく、大野市が次の世代に伝えたい大切な宝物です。ブナ林からの眺望はありませんが、木漏れ日が輝いて、森林浴は大変気持ちが良いです。雨上がりのブナ林はもやがかかり、幻想的です。

【片道】 約1.5km
約50分

ブナ一斉林までの散策ルートです。登山口案内板からすぐ右手の自然観察道に入ります。スギ林を過ぎるとオウレン畑が始まります。自然観察道は作業道と交差しながら続きます。3本の小さな沢があり、ぬかるんでいるところもあります。沢にかかる小さな橋の板は滑りやすいので、足元に十分注意してください。作業道と4回交差したのち、急坂が3ヶ所あります。登りきるとなだらかなブナの一斉林に到着します。

「平家平のトチノキ」見学ルート

緑ライン

④トチノキ広場道標 ～ ⑤トチノキ広場

トチノキ広場までの散策ルートで、作業道を利用します。500mほどの広場でベンチで休むことができます。広場の奥に続く小径を進むと小さな祠と大野市指定天然記念物の「平家平のトチノキ」があります。このトチノキは樹齢400年以上で今も樹勢は衰えていません。ごつごつした姿は自然の厳しさと長い年月が感じられます。広場の左手奥には市民ボランティアがブナの苗木の植樹を行い、ブナの森づくりを行っています。

【片道】 約0.7km
約15分
（一部作業道利用）

トチノキ広場までの散策ルートです。作業道は作業車が通る場合があるので、気をつけて歩行してください。

平家平魅力満喫ぐるっとルート

青ライン
赤ライン
緑ライン

すべてのルートをめぐります。ブナ一斉林や大野市指定天然記念物の「平家平のトチノキ」など平家平の見どころを全て楽しむことができます。時間がある方や健脚の方におすすめです。

【登り】 約5.2km 約2時間

①平家橋 → ②登山口案内板 → ③ブナ一斉林

【下り】 約6.5km 約2時間25分

③ブナ一斉林 → ④トチノキ広場道標 → ⑤トチノキ広場 →
④トチノキ広場道標 → ②登山口案内板 → ①平家橋

平家平のトチノキ

（大野市天然記念物）
◎樹齢 400年以上 ◎幹回り 7.2m
◎枝張り 31.4m ◎樹高 26m

トチノキ広場奥にそびえる大トチノキは、日本でも有数の巨木です。トチの実は大変美味で、中近世ごろでは日本各地で米食の代用食と食されました。近代に入ると、トチノキは木目の美しさから家具材として伐採されるようになり、明治30年ごろには大木は少なくなりました。このため平家平がある旧西谷村では明治40年ごろ伐採の禁止を住民で誓い合ったそうです。大トチノキは大野市が平家平を購入した平成8年9月26日に市の天然記念物に指定されました。

姥ヶ岳
標高1,453.6m
登山口案内板から往復2時間30分。
ゆるやかな尾根道



平家平のトチノキ
（大トチノキ）
大野市天然記念物

急坂あり
1,293m地点
ピーク

姥ヶ岳登山道
ここより登山装備が必要です

③ブナ一斉林

ブナ一斉林

平家平の一番の見どころです。ブナの木と樹下のオウレン畑のコントラストが大変美しく圧巻です。ブナは成長がたいへん遅い植物です。ブナは成長するにつれ、根から毒を出し他のブナを衰弱させようとします。そのうちに一定範囲に、一番元気なブナだけが生き残り、他のブナは自然淘汰されながら、大きく成長し、ブナの林を作っていきます。ブナの樹皮は灰白色できめが細かく、地衣類がよく共生し、独特の模様が見られます。ブナは成長が大変遅く、曲がりやすいため、竹の重みで根元が曲がってしまします。このように厳しい自然環境のもと、ブナは静かにそして力強く生きています。一本一本違う表情を見せてくれるブナを観察しながら森林浴を味わうのも良いでしょう。



ブナ植栽地

市民団体がブナの苗木を植樹しブナの林を増やす保全・保護活動を行っています



⑥トチノキ広場
目当たりもよく、ベンチもあります。休憩所にぴったりです

「平家平のトチノキ」
見学ルート

④トチノキ広場道標

自然観察道ブナ一斉林ルート

市有林境界
これより奥は市有林ではありません



自然観察道旧里道ルート



オウレン畑

ヒヨドリバナ群生

アサギマダラ飛来場所

ゲート
ここからは一般車は通行できません

第1駐車場 5台

国土交通省観測所

作業道につき
普通車通行困難
平家橋から登山口案内板まで4.3km



南
北



このあたりから滝を見ることができます

登山道入り口

森林管理作業道につきゲート前に駐車しないでください



平家橋駐車場
地元の方々のご厚意により駐車できます

JR越前大野駅から29km
自動車約50分



平家平散策マップ

- 作業道です。歩行はできますが歩行距離、時間ともに長くなります。作業車が通りますので、気をつけて歩行してください。
- トイレはございません。あらかじめご了承ください。
- 手すりがあるルートはございませんので、気をつけて散策してください。
- 携帯電話はつながりません。
- いたるところにオウレン畑があります。オウレンは現在も栽培中です。傷つけないようにしましょう。

ちょっと足をのばして…

姥ヶ岳

標高1453.6m



姥ヶ岳の名前の由来はその名のとおおり昔、山頂近くの洞穴に山姥が住んでいたという伝説からきています。平坦な山稜が南北に伸びる山容が特徴です。山頂からは白山や岐阜県境の山々の連なりや、眼下には笠生川ダムが望めます。南東部の鞍部や谷間周辺には、ブナ、ナンゴクミネカエデ、マルバマンサクなどの低木が多く見られる湿地があり、その中央部や谷川沿いには、多数のミズバショウが群生しています。その規模は県内でも最大級です。

平家平ブナ一斉林より【片道】 約4.7km

【登り】 約1時間30分

【下り】 約1時間

平家平ブナ林より続く登山道を利用。所々急な登りはあるものの、山頂まで緩やかな斜面が続くので比較的登りやすい。(トイレなし)



サラサドウダン (ツツジ科) 5月頃

樹高2～5mになる落葉低木で、旧西谷村や和泉地区の山地に生育しています。5月の満開時は美しく、枝から10個内外の花が垂れ下がる姿に、登山者はしばしとれます。花は鐘形で長さ0.8～1cm、下部は黄白色で紅色の縦条があり、上部は淡紅色で5裂し、裂片は円形になります。



フデリンドウ (リンドウ科) 5月頃

リンドウの仲間多くは秋に咲きますが、フデリンドウは5月ごろ花が咲きます。花の閉じた形が掌の穂に似ていることから、この名が付けられました。六呂師高原では目当たりのよい所に生育していますが、平家平では西斜面に生育しています。茎の高さは10cm、葉は広卵形で、裏面が赤紫色を帯びることがあります。花冠は青紫色で先は5裂し、光を受けて開花します。



ギンリョウソウ (イチヤクソウ科) 6月頃

山地の林内で腐植土が多く、やや湿り気のある所に生育します。和名「銀龍草」は、全体にロウソクのような白色で、草全体の姿を意に見立て名付けられました。薄暗い林内に生えるこの草の形から、別名ユウレイタケ(幽霊茸)ともいわれています。6月ごろ、ミズナラ、ブナ帯によく見られます。



エゾアジサイ (ユキノシタ科) 6～7月頃

日本海側の多雪地に生育するアジサイで、太平洋側のヤマアジサイと区別されます。ヤマアジサイに比べて全体に大きく、葉・花・果実も大きいです。初夏を代表する花で、各地の山々によく見られます。花は黄白色から淡青紫色まで時間の経過により変化します。



アキシバ (ツツジ科) 7～8月頃

林内に生える0.5～1mほどの落葉低木です。若枝には稜があり、葉は紙質でだ円形、先はとがっています。7～8月、葉腋より長い柄を出し、1つの花が下垂します。花冠は淡紅紫色で4裂し、開くと反り曲がります。果実は10月に赤く熟して美しいです。



エソリンドウ (リンドウ科) 9月頃

標高のやや高い山地に生えています。大野の山で見る、リンドウのほとんどはこの種で、花屋でリンドウとして売られているのも、これの栽培品が多くみられます。祖名は北国のリンドウという意味で、本州中部以北に分布します。茎は太く、高さ30～80cm。葉は対生、披針形で裏面は白色を帯びています。花は9月、上部葉腋と茎の頂部に付きます。



ナナカマド (バラ科) 9～10月頃

山地から亜高山にかけて生育しています。和名は燃えにくく、竈に7たび入れても燃えきらないという意味で付けられました。白色の花を6月ごろに付けます。紅葉の中では、ナナカマドの右に出るものが無い、といわれるほど鮮やかです。赤く丸い房状に集まった果実、真赤に色付いた葉は、多くの人目を引き付けます。標高が高いほど色は鮮やかです。